

がんによる死亡者の減少と 検診受診率の数値目標について

平成24年2月1日

がんによる死亡者の減少 (年齢調整死亡率(75歳未満)20%減)

20%の内訳は、(1)1990年から2005年の年齢調整死亡率(75歳未満)が年平均1%減であり、この傾向が持続した場合、**10年で10%の減少**が見込まれること。
(2)これに加え、**がん対策の総合的推進による死亡率減少の加速(10%)**を想定

対策分野	対策目標	2015年における死亡率減少
たばこ	①喫煙率半減	1.6%
	②喫煙率1/4	3.0%
検診	③受診率50%	4.0%
	④受診率70%	6.1%
均てん化	⑤主要5臓器	3.3%
	⑥全臓器	4.7%
	⑦全臓器達成7年	6.6%
合計	①+③+⑤	8.9%
	①+③+⑥	10.3%
	②+④+⑦	15.7%

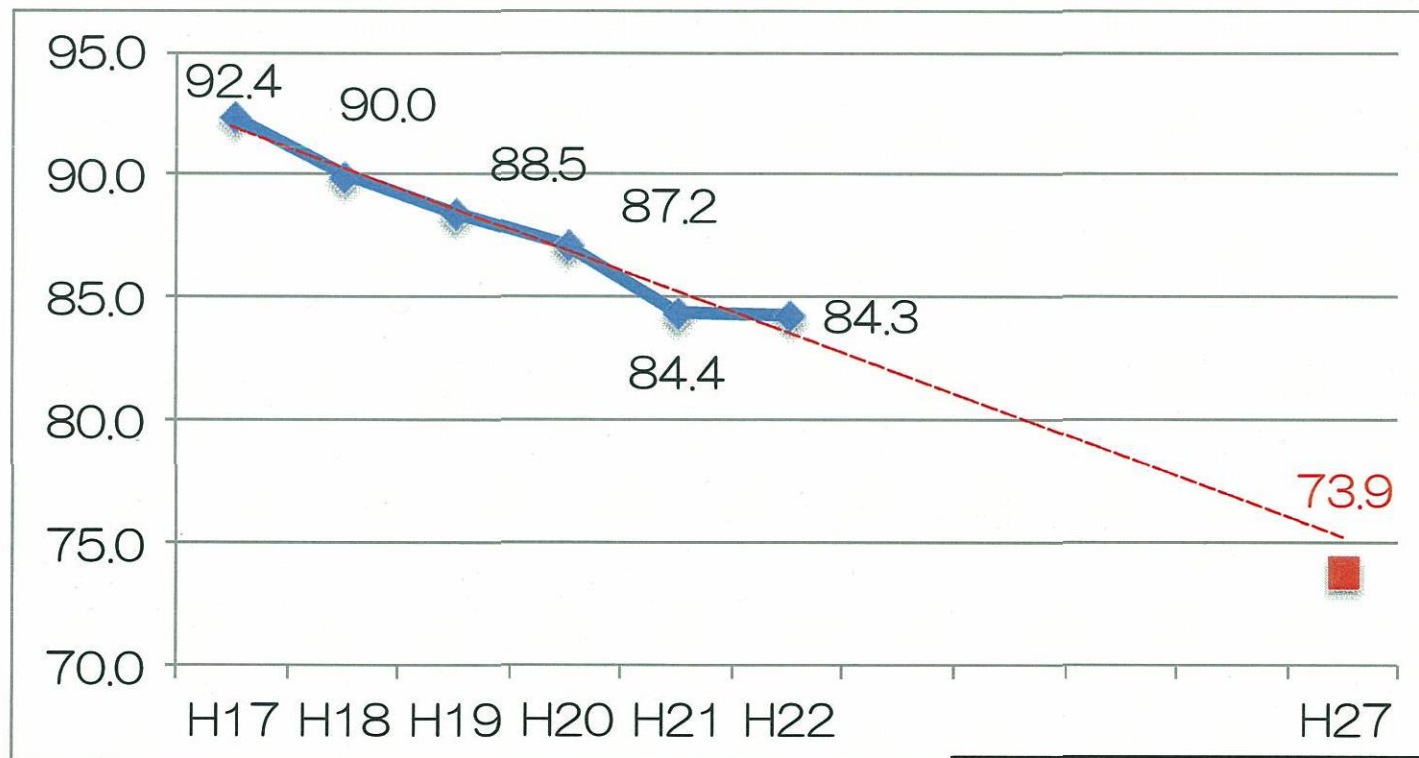
上記(2)は、**上記赤字部分(1.6+4.0+4.7=10.3%)**の組合せを想定

全体目標に対する進捗状況

【目標①】がんによる死亡者数の減少

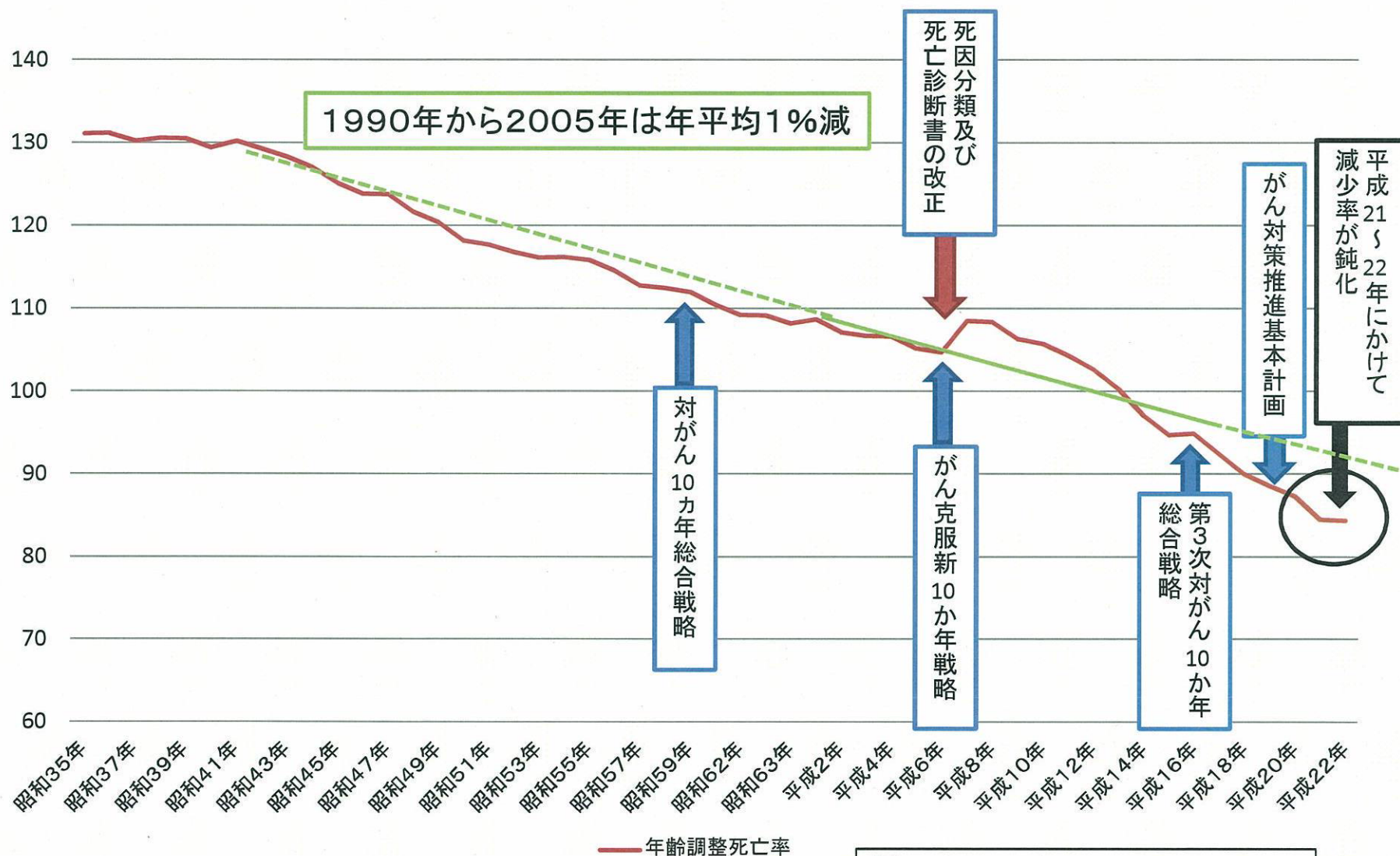
(10年間でがんの年齢調整死亡率(75歳未満)の20%減少)

【進捗①】5年間(H17~H22)で約9%の減少。今後5年で11%の減少が必要。



出典
独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター

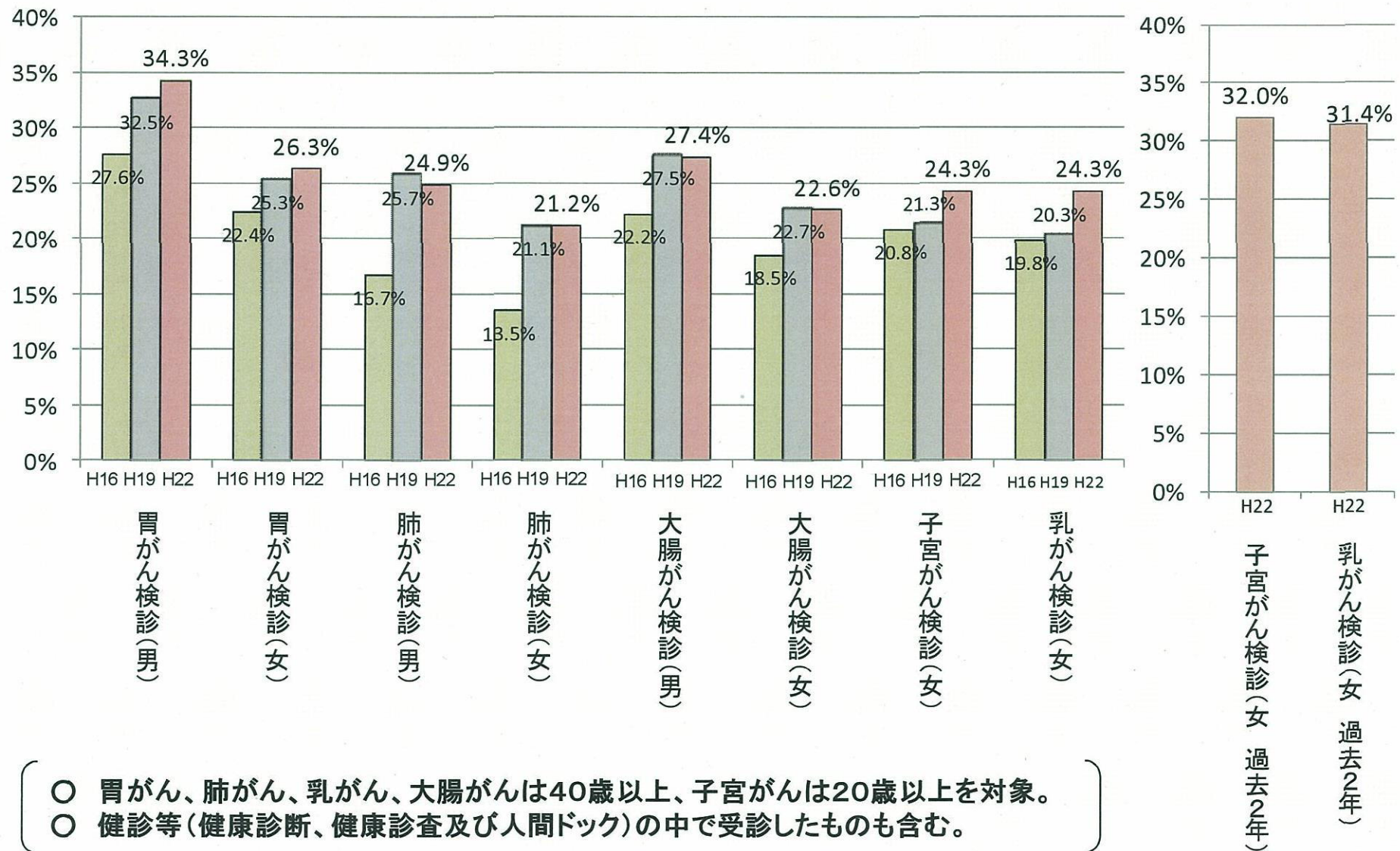
年齢調整死亡率(75歳未満)の推移



がんによる死亡者の減少 の数値目標の考え方について

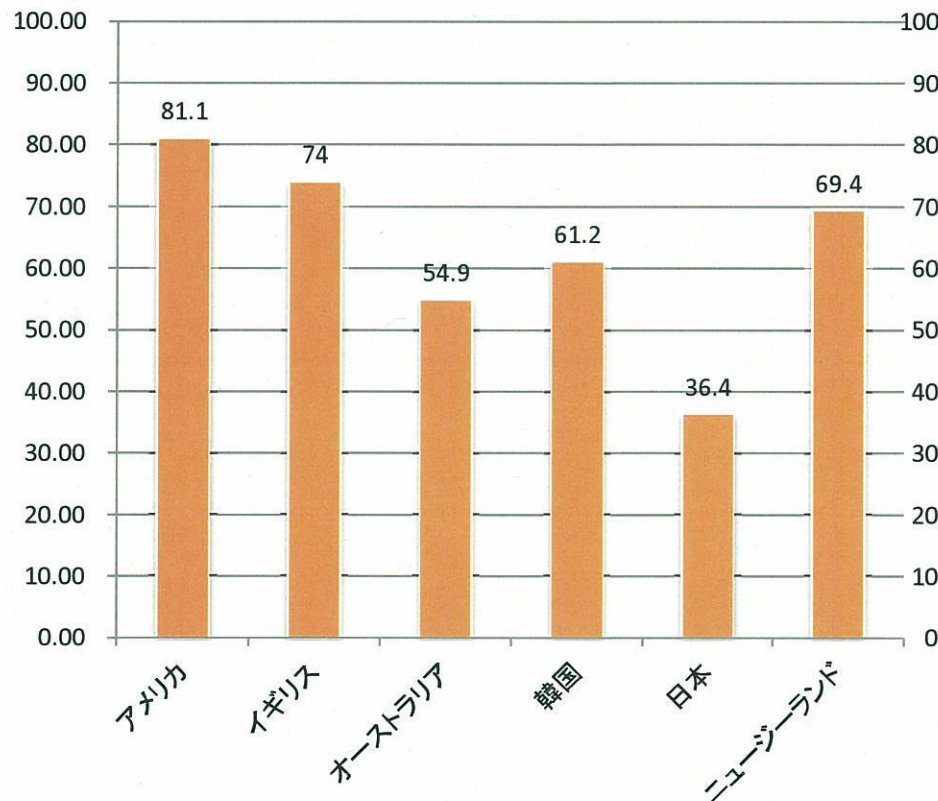
- 平成19年に掲げた10年間の目標である「がんの年齢調整死亡率(75歳未満)の20%減少」を維持する。
- 現在、目標達成より若干遅れており、今後5年間で11%の減少が必要である。
- がん検診受診率を向上させるための対策、たばこ対策、がん医療の均てん化等を引き続き進め、確実に20%を達成することを目指す。

がん検診の受診率の推移

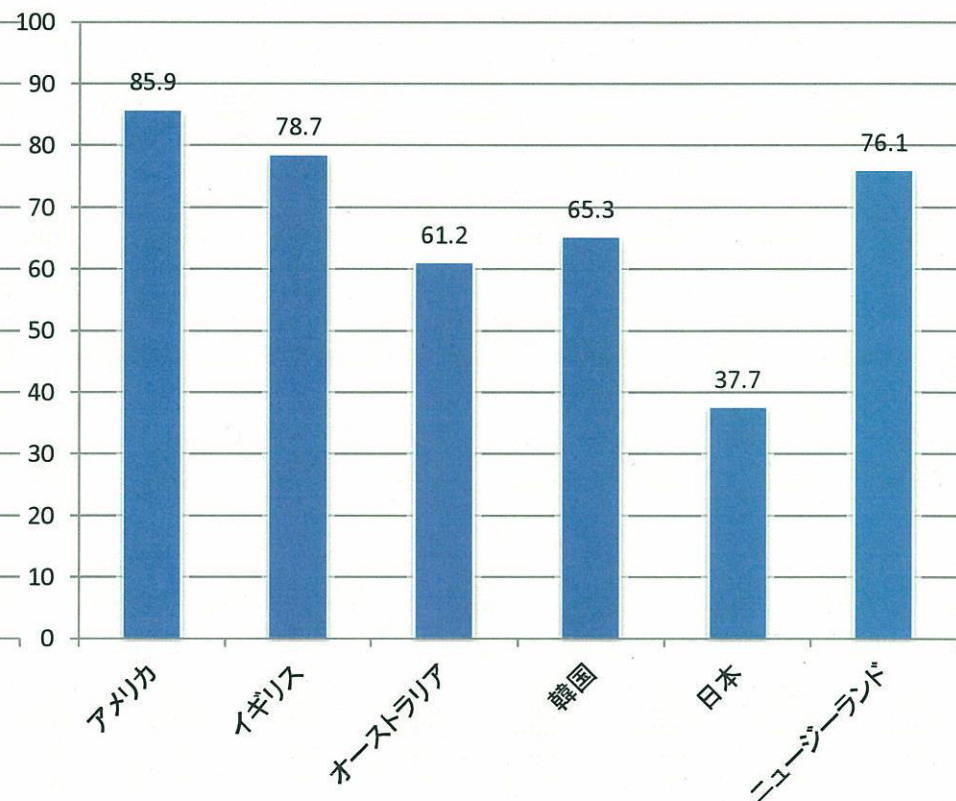


がん検診受診率の国際比較

乳がん検診(50—69歳)



子宮がん検診(20—69歳)



出典: OECD Health Data 2011

海外のがん検診について

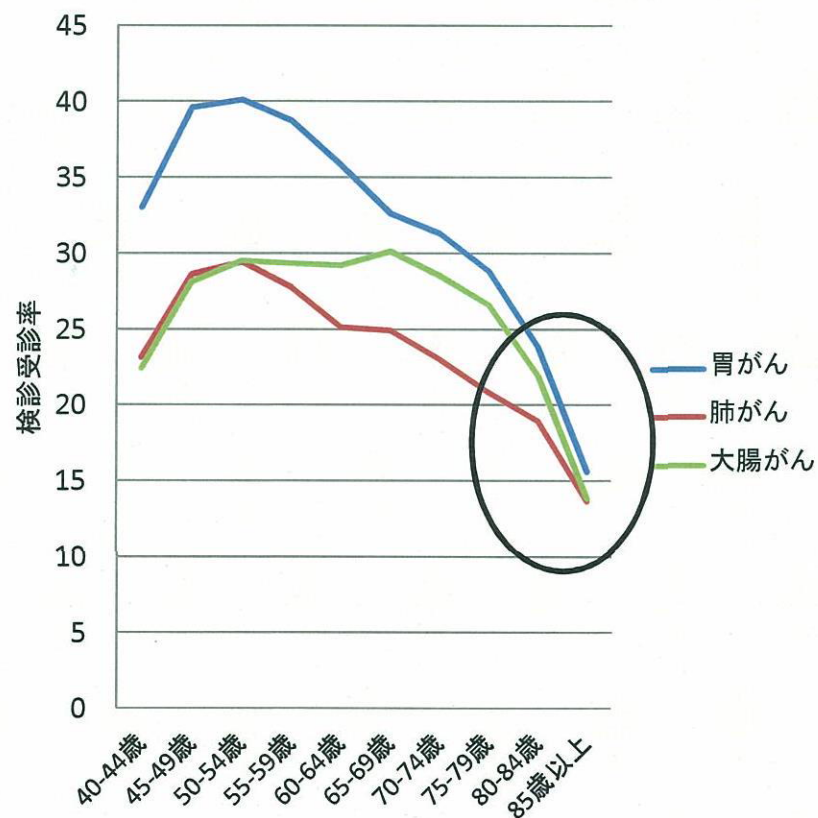
	乳がん		子宮頸がん		大腸がん	
英	50-70歳	3年に1回	25-49歳	3年に1回	60-69歳	2年に1回
			50-64歳	5年に1回		
			65歳以上	50歳から一度も検診を受けていない者あるいは過去の検査結果で異常があった者		
豪	50-69歳	2年に1回	18-69歳	2年に1回	2011年1月～2014年12月の間に50,55,65歳になった者	
NZ	45-69歳	2年に1回	20-69歳	2年に1回	-	-
韓国	40歳以上	2年に1回	30歳以上	2年に1回	50歳以上	毎年
米	40-64歳	州により異なる	18-64歳	州により異なる	50-64歳	州により異なる
加	50-69歳	2年に1回	18-69歳	3年に1回	50歳以上	1-2年に1回
日本	40歳以上	2年に1回	20歳以上	2年に1回	40歳以上	1年に1回

- 英はNHS Cancer Screening Programsより
- 豪はBreastScreen Australia Program, National Cervical Screening Program, National Bowel Cancer Screening Programより
- NZはBreastScreen Aotearoa, National Cervical Screening Programmeより
- 韓国はNational Cancer Screening Programより
- 米はNational Breast and Cervical Cancer Early Detection Program, Colorectal Cancer Control Programより
- 加はHealth Canadaのホームページより

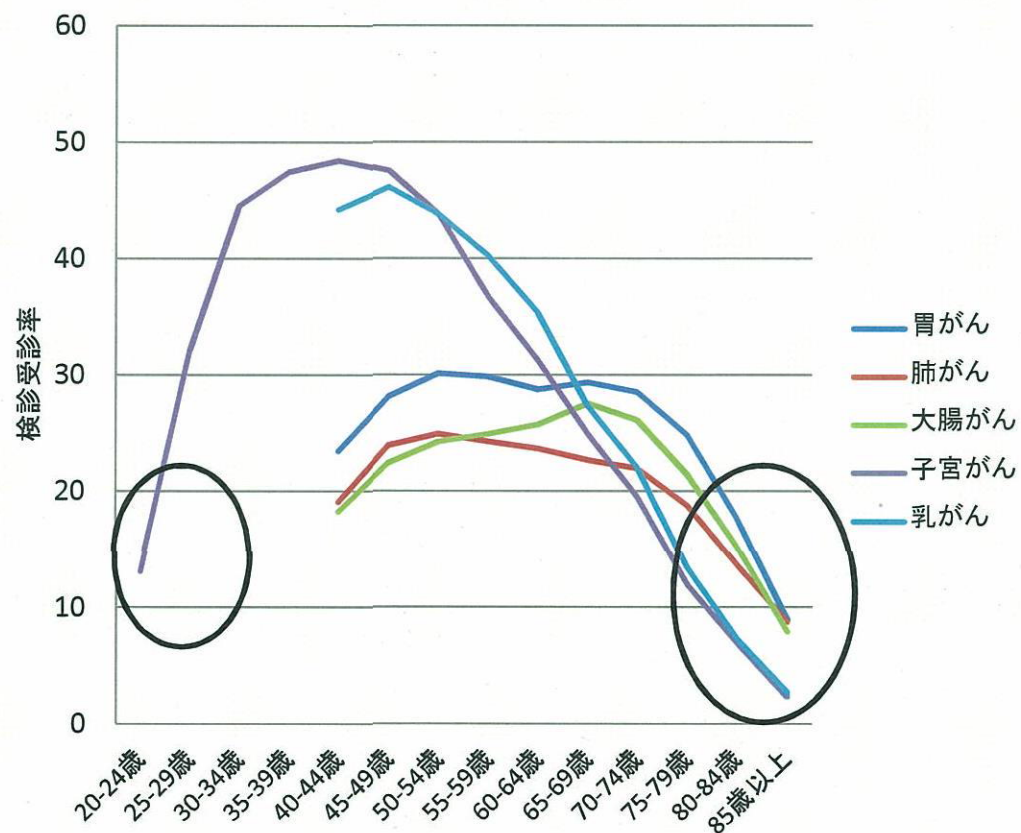
年齢階級別がん種別検診受診率

がん検診受診率は高齢者と子宮がん検診の20代において低い傾向がある。

(男)



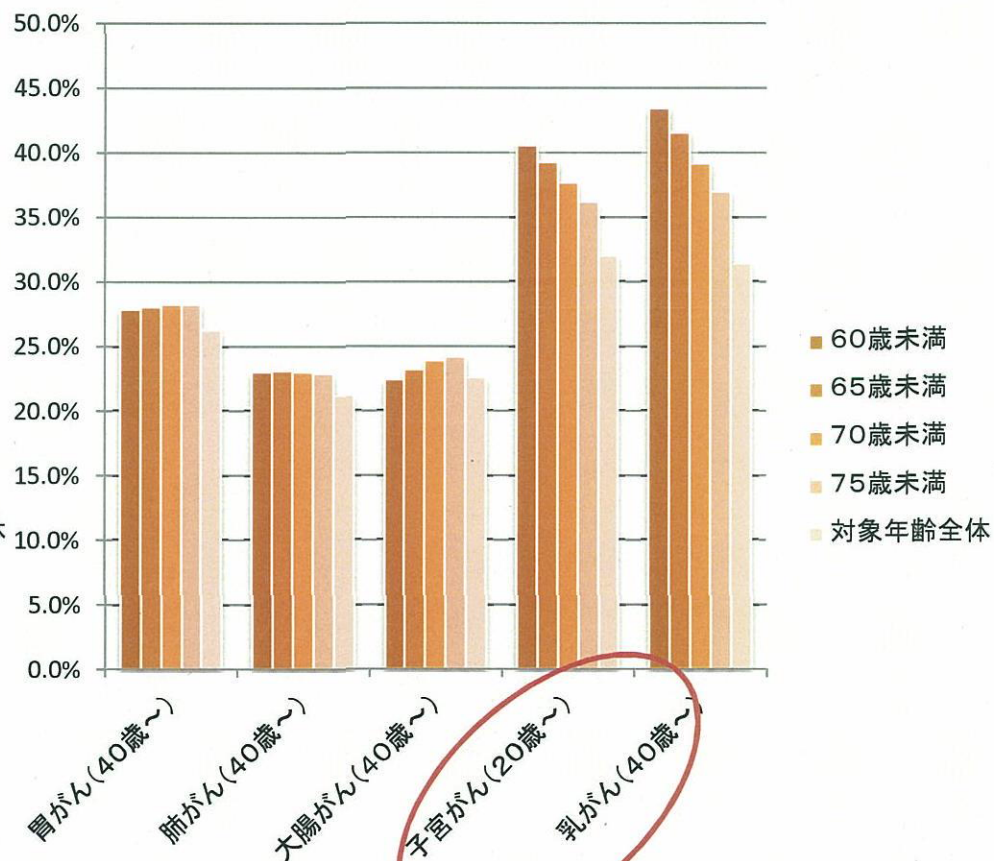
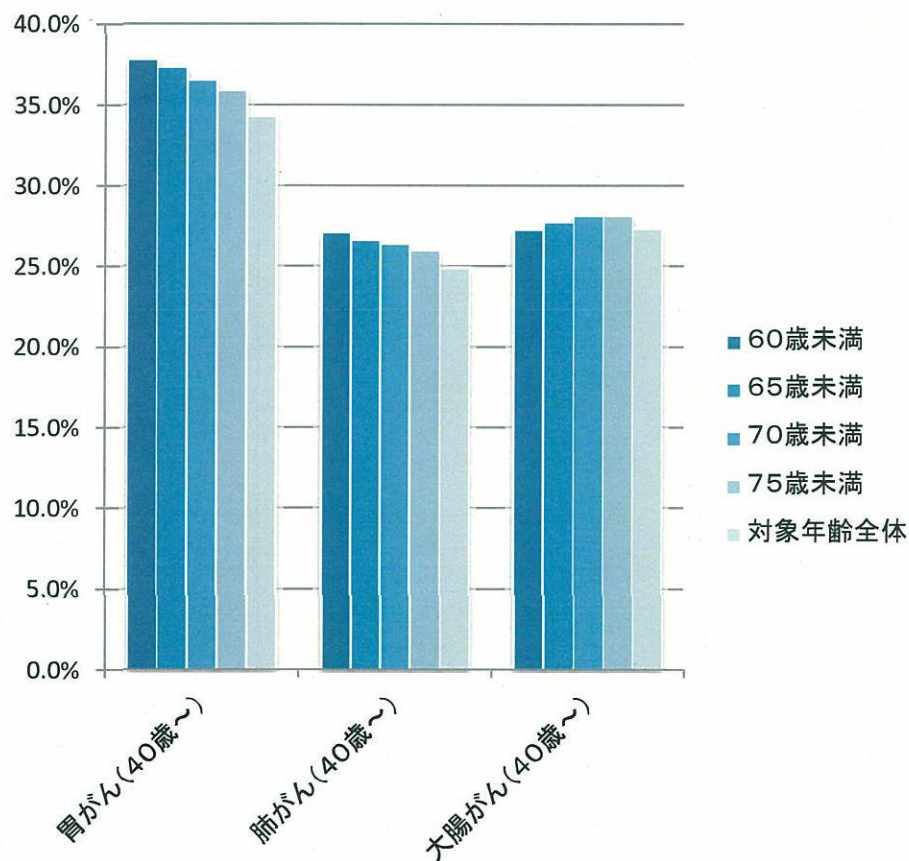
(女)



出典: 国民生活基礎調査

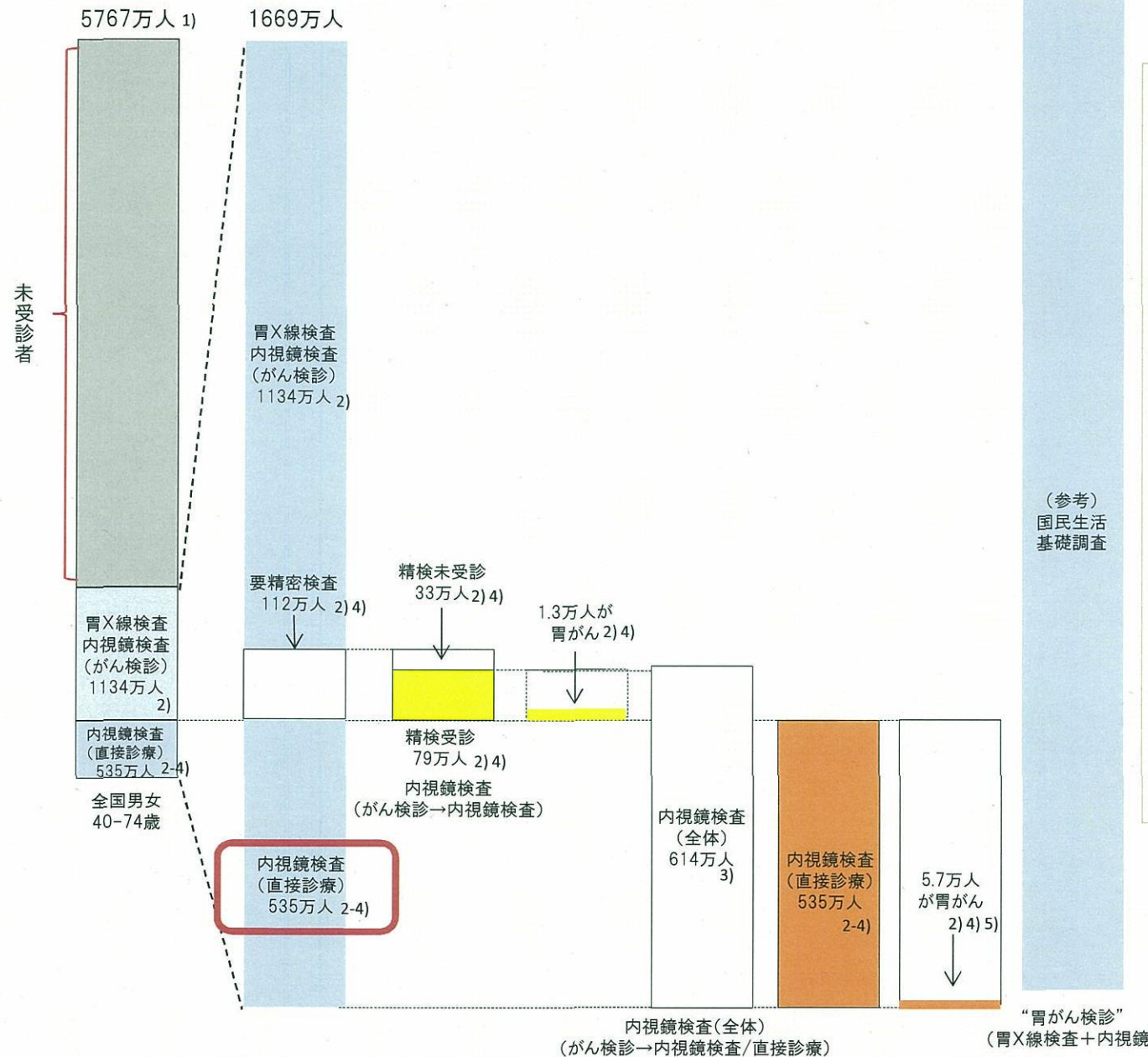
年齢層別がん種別検診受診率

特に乳がん・子宮がん検診の高齢者の受診率が低い。

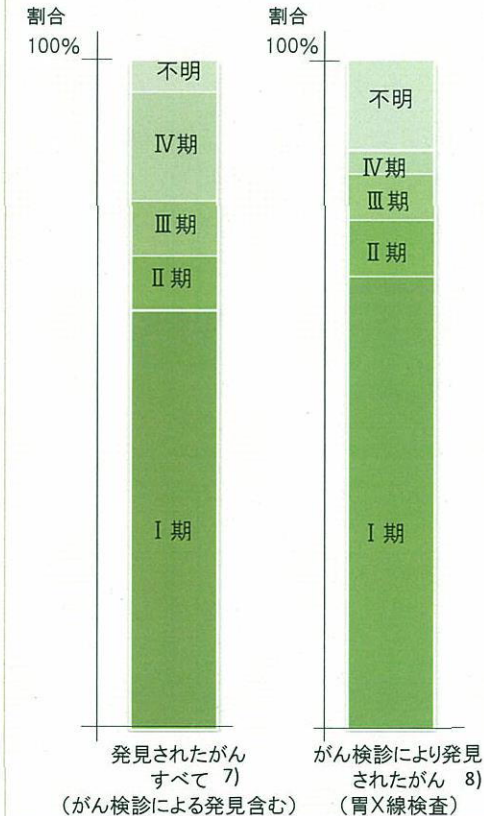


胃がん発見までの流れ図(粗い推計)

胃がん 全国40-74歳男女



(参考)発見されたがん全体⁷⁾及び
検診により発見されたがん⁸⁾の病期分類の分布

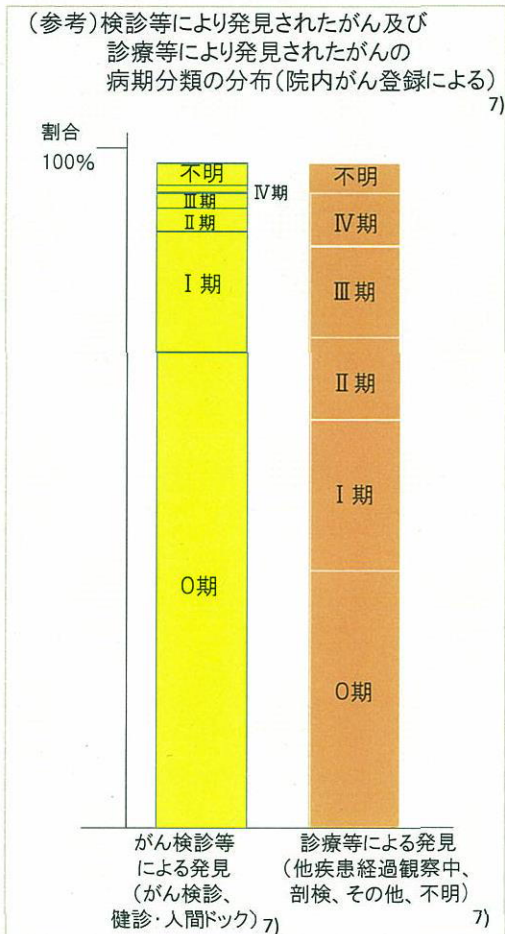
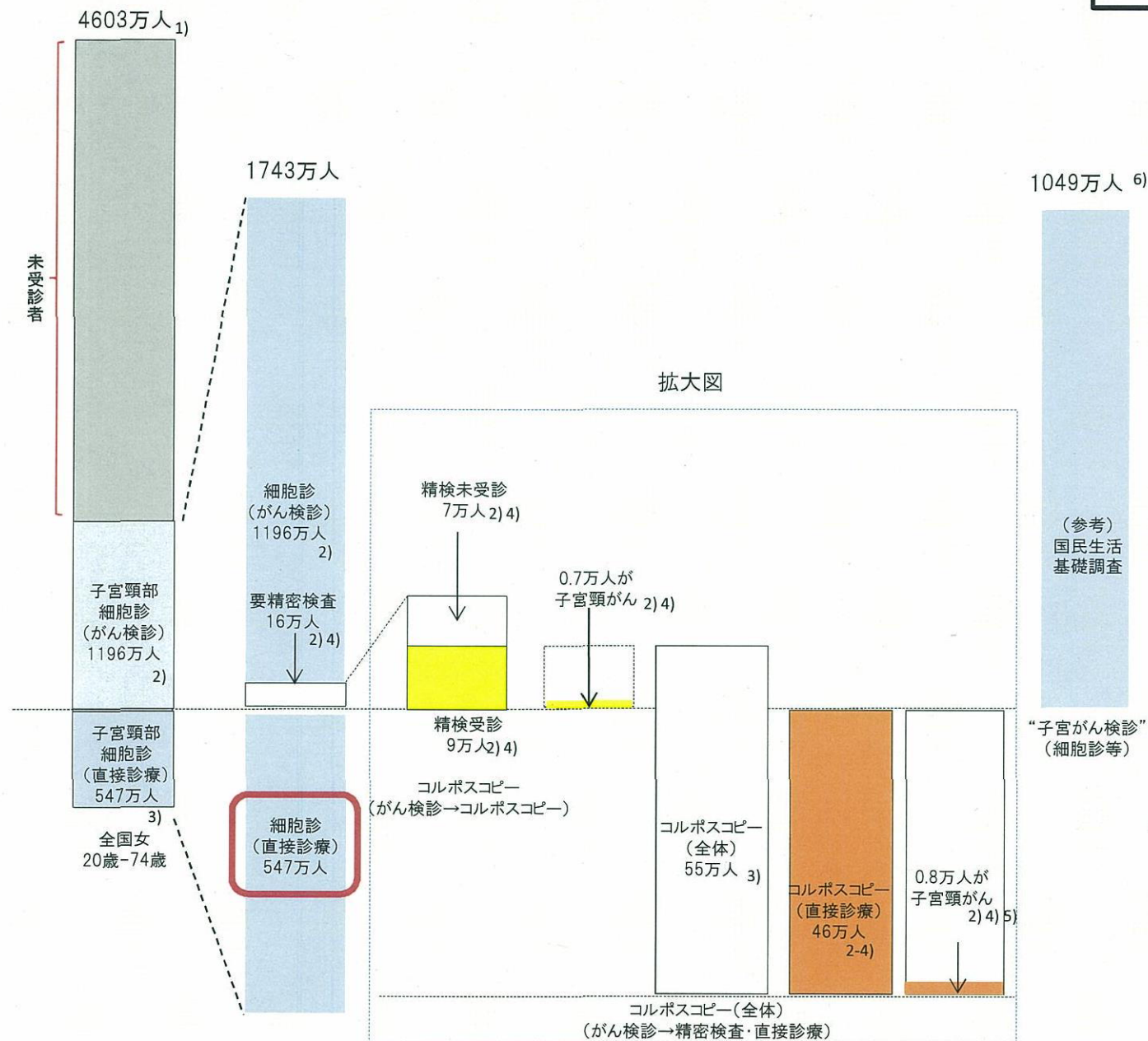


出典:

- 1) 総務省人口推計平成19年10月1日現在人口
- 2) 厚労省がん検診受診率分析事業(平成23年)
- 3) 平成19年社会医療診療行為別調査
- 4) 平成19年度地域保健・老人保健事業報告
- 5) 全国がん罹患モニタリング集計2006
- 6) 平成19年国民生活基礎調査
- 7) がん診療連携拠点病院
院内がん登録2008年全国集計
- 8) 平成21年度消化器がん検診全国集計資料集

子宮頸がん発見までの流れ図(粗い推計)

子宮頸がん(1年間)
全国20-74歳女

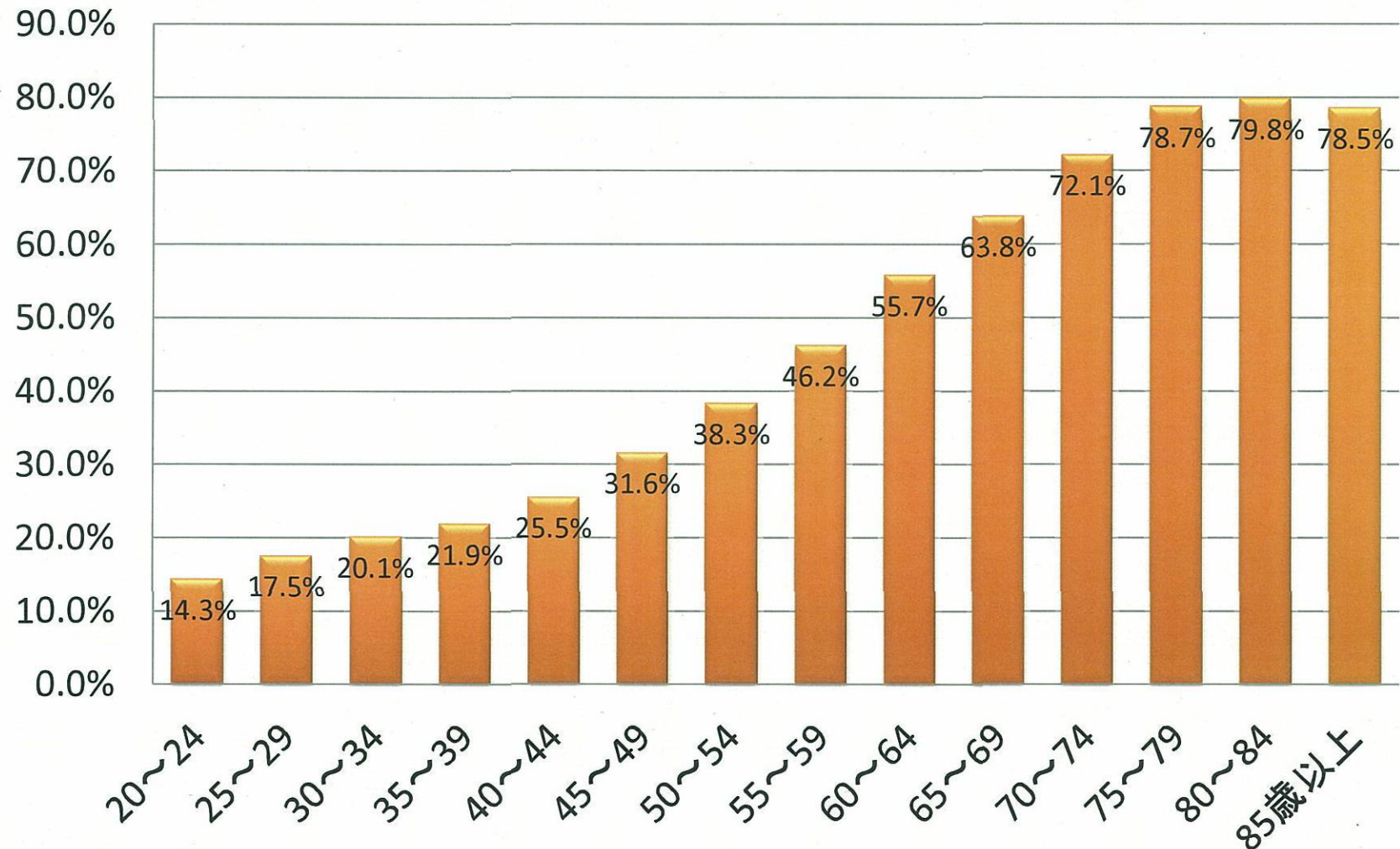


出典：

- 1) 総務省人口推計平成19年10月1日現在人口
- 2) 厚労省がん検診受診率分析事業(平成23年)
- 3) 平成19年社会医療診療行為別調査
- 4) 平成19年度地域保健・老人保健事業報告
- 5) 全国がん罹患モニタリング集計2006
- 6) 平成19年国民生活基礎調査
- 7) がん診療連携拠点病院
院内がん登録2008年全国集計

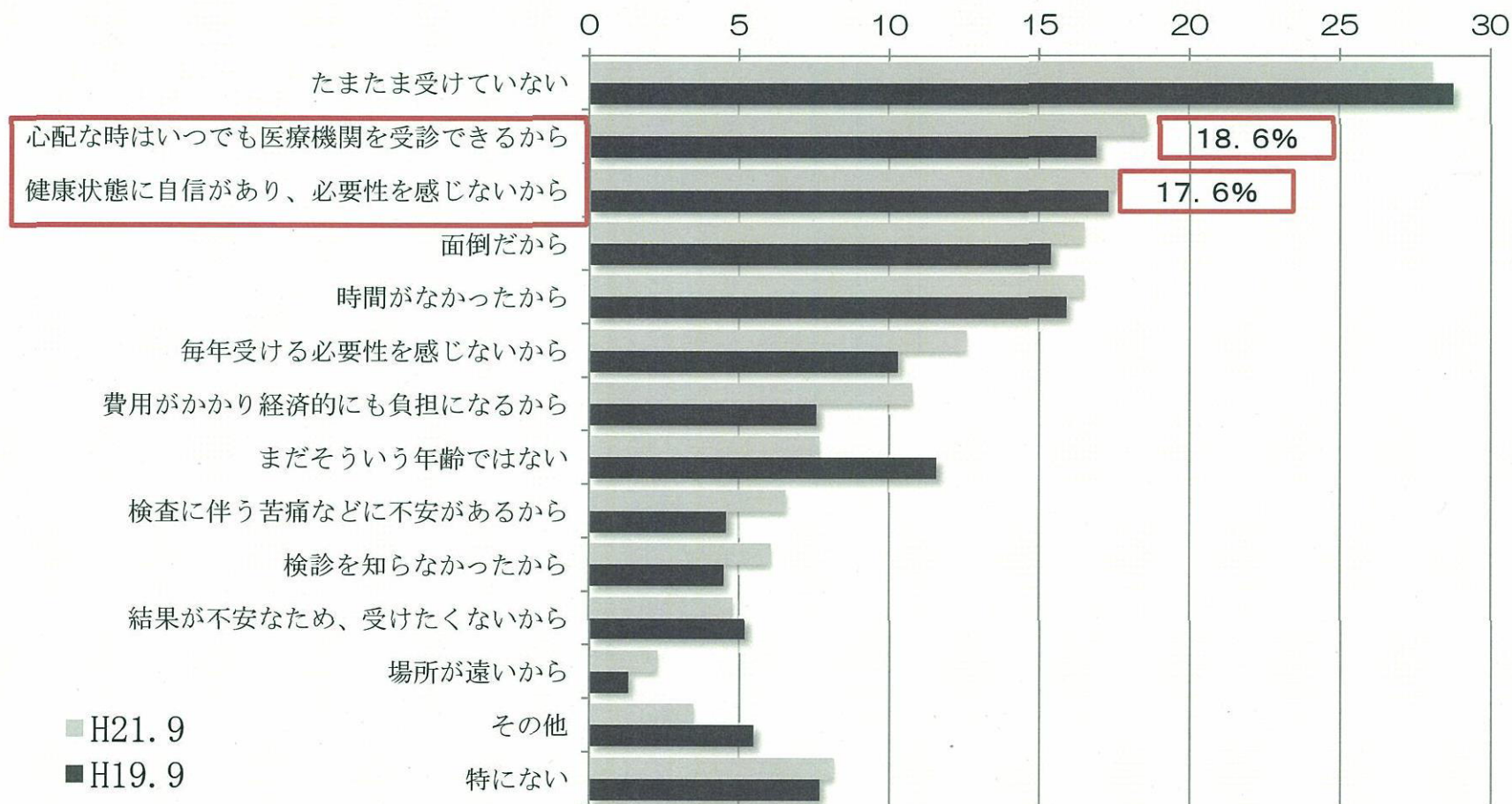
年齢階級別通院率

70歳以上では約7－8割が通院している。



出典：国民生活基礎調査

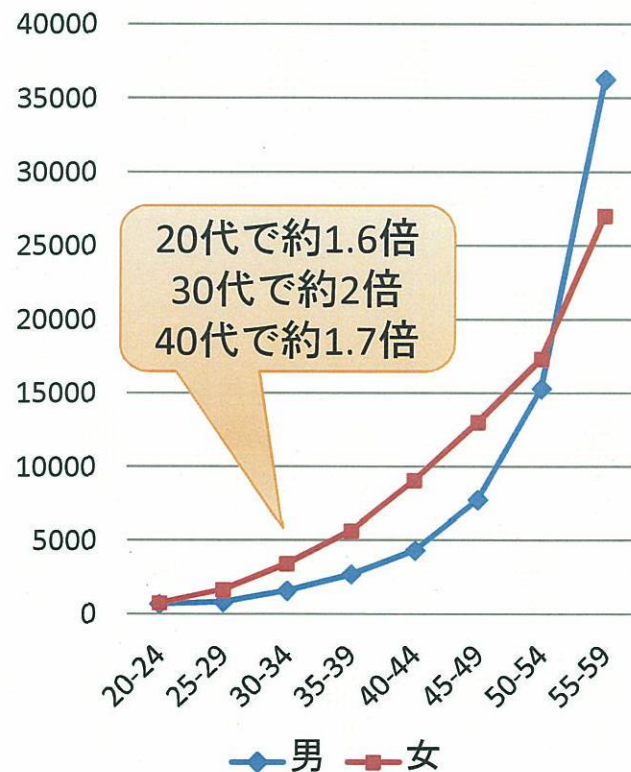
がん検診未受診の理由



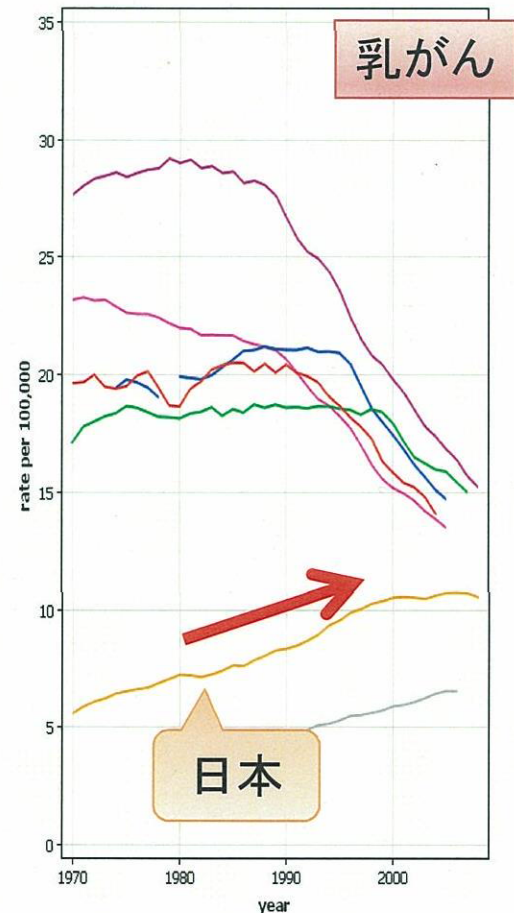
女性のがんの死亡率の上昇

乳がん・子宮頸がん年齢調整死亡率(20-59歳)を比較すると
他の先進国が低下しているのに対し、日本は上昇している。

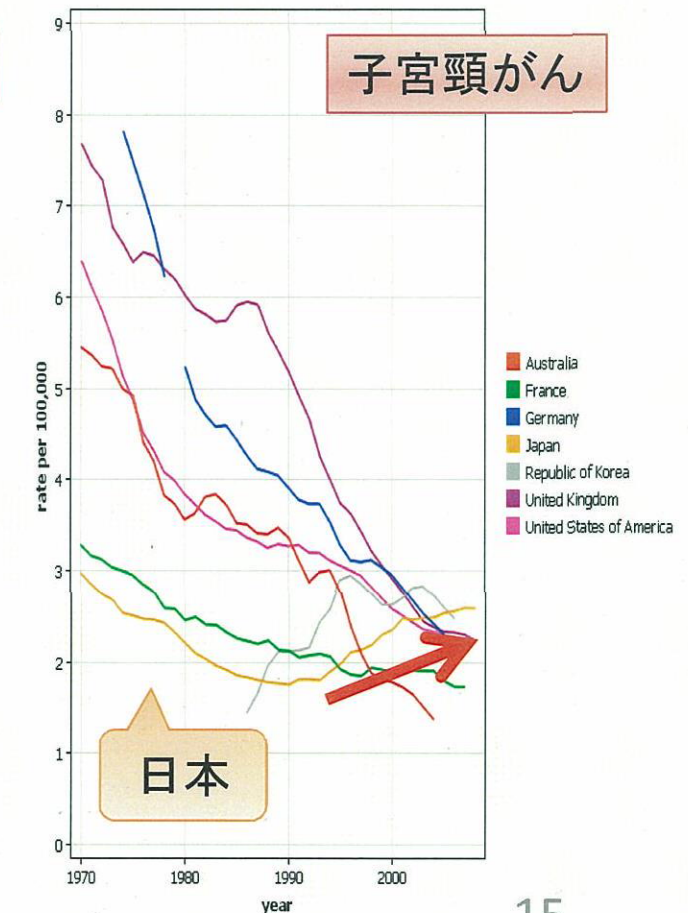
男女の年代別罹患者数
(2006年)



Mortality from Breast Cancer
Age-standardised rate (World), age (20-59)



Mortality from Cervix uteri Cancer
Age-standardised rate (World), age (20-59)



がん検診受診率の数値目標の 考え方について

- 海外諸国の検診受診率の動向や、診療の中で受けている検査を差し引いても受診率は低く、「50%」は維持するべきではないか。
- 一方、現状20－30%であることから、実現可能な目標値を設定するべきではないか。
- 我が国においては海外諸国に比べて医療へのアクセスがよく、特に高齢者では通院している者が多いこと、海外諸国では年齢に上限を設けてがん検診をやっていることを踏まえ、年齢に上限を設けた受診率に関して目標値を設定するべきではないか。
- また、乳がん、子宮がんについては死亡率が上昇していることや、大腸がん検診については検診の有効性が確実であることを踏まえ、これらのがんについて特に目標値の達成を掲げてはどうか。

受診率の目標とは別に、検診の項目や方法等について、早期に検討会を立ち上げ検討する予定。